

goorin jct.

グーリン・ジャンクション



※堺市追記
「グーリン・ジャンクション」との名称は、優先交渉権者の提案名称であり、本施設名として決まったものではありません。

自転車と交わる8つのサイクル

グーリンジャンクションでは様々な要素が「交わりあう」ことで、自転車を軸としつつもその枠を越えたアクティビティを育み、市民のいきいきとした営みを描いていきます。



“サイクリストだけじゃない、「あらゆる人にひらかれた」公園”



①サイクリスト

広域サイクリングの起点として駐輪・メンテ施設を整備し、イベント情報も発信。仲間づくりやレース参戦など、多彩な関わり方が広がり、自転車への熱意をさらに深められます。



②ファミリー

親子で自転車遊びを楽しめるゾーンや、ベーカーリーや週末イベントで昼食を買って芝生でのピクニックなど、日常的に家族連れで楽しみに来れる場を用意しています。



③学生・教育機関

大学や専門学校との連携プログラムや課外学習の場を提供し、自転車を軸にした交通や環境、地域研究などを多角的に実践的に学び、次世代の人材育成を幅広く支援します。



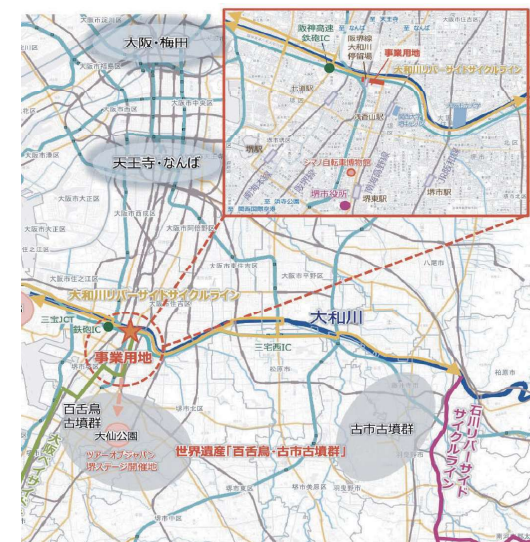
④高齢者

早朝サイクリングでゆったり走行し体を動かし、ベーカリーで朝食。地域の健康教室やヨガ、交流プログラム等も用意し、身体機能の維持と生きがいづくりを支援します。



⑤インバウンド、留学生

多言語対応のサイクリングガイドやレンタサイクル、地域観光情報を整備し、堺の魅力をも文化視点で発信可能に。留学生向けに自転車の交通ルール教室も開催。



本計画地は、大和川リバーサイドサイクルラインや大阪ベイサイドサイクルライン、さらにツアー・オブ・ジャパンの舞台である大仙公園など、広域的なサイクリングアクティビティが交差する「結節点」です。また、阪神高速や阪堺電車を含む4本の路線が集まり、かつては大和川の水運で栄えた歴史を持つ、交通の要衝でもあります。

過去と未来、地域と広域、自転車と公共交通がつながる場所として、堺の新たなハブステーションとし、自転車を中心に据えながら、様々な人の営みが交わり新しい出会いや取り組みがうまれるような場所にします。

- ▶「サイクルシティ堺」の中核拠点として、自転車文化の発信とにぎわい創出を両立させる統一的な運営
- ▶未就学児から自転車教育を段階的に実施することで、ルール・マナーの模範となる自転車愛好家を1人でも多く輩出
- ▶民間活用施設、自主提案施設と有機的に連携することによって、自転車を活用した関西一円での広域連携の実現



民間活用施設と自主提案施設の役割をはっきりと定義することで、自転車拠点と相互に連携した運営を行い、施設全体の付加価値を向上させます。



広場エリア (goorin garden/goorin land park)

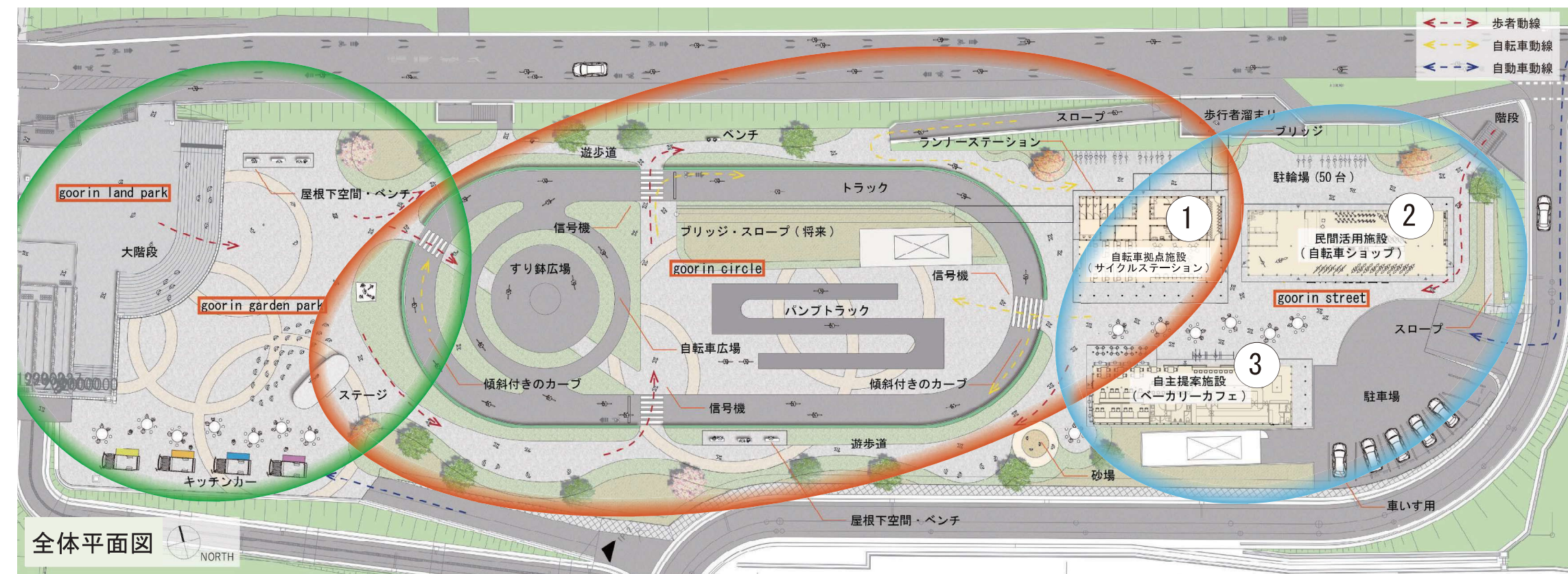
大和川駅側からの来訪者を迎える広場空間。平常時は子どもたちが地上絵の上を走り回り、週末はステージや広々としたエリアを有効活用したイベントを開催。

サイクリングエリア (goorin circle)

緑豊かな遊歩道の中にぽっかりと現れる広大なサイクリングトラック。パンプやすり鉢状の広場など、自転車の様々な楽しみ方に触れられる空間に。

店舗エリア (goorin street)

サイクルステーションと自転車ショップ、ベーカリーカフェが相互に連携して賑わいをつくるエリアです。



全体平面図



自転車拠点施設

① サイクルステーション

サイクリストが気軽に立ち寄り、情報交換や交流を楽しめる場を設けることで交流機会を創出。キャッシュレス決済を整備し、休憩拠点としての付加価値を向上させます。

民間活用施設

② goorin bike (仮称)

サイクリストや初めてスポーツバイクに乗る方のサポート拠点として、メンテナンス、小売、飲食機能を提供。オリジナル商品を開発・販売することで施設の認知度向上、ファンを創出します。

自主提案施設

③ goorin bakery (仮称)

見たがかわいいキューブパンを主体としたベーカリーカフェ。広く堺・大阪の市民に利用していただき、日常利用できるベーカリーをきっかけに、自転車に興味を持ってもらう入口の役割。